

新潟大学季刊広報誌

新潟大学の魅力と現在を発信

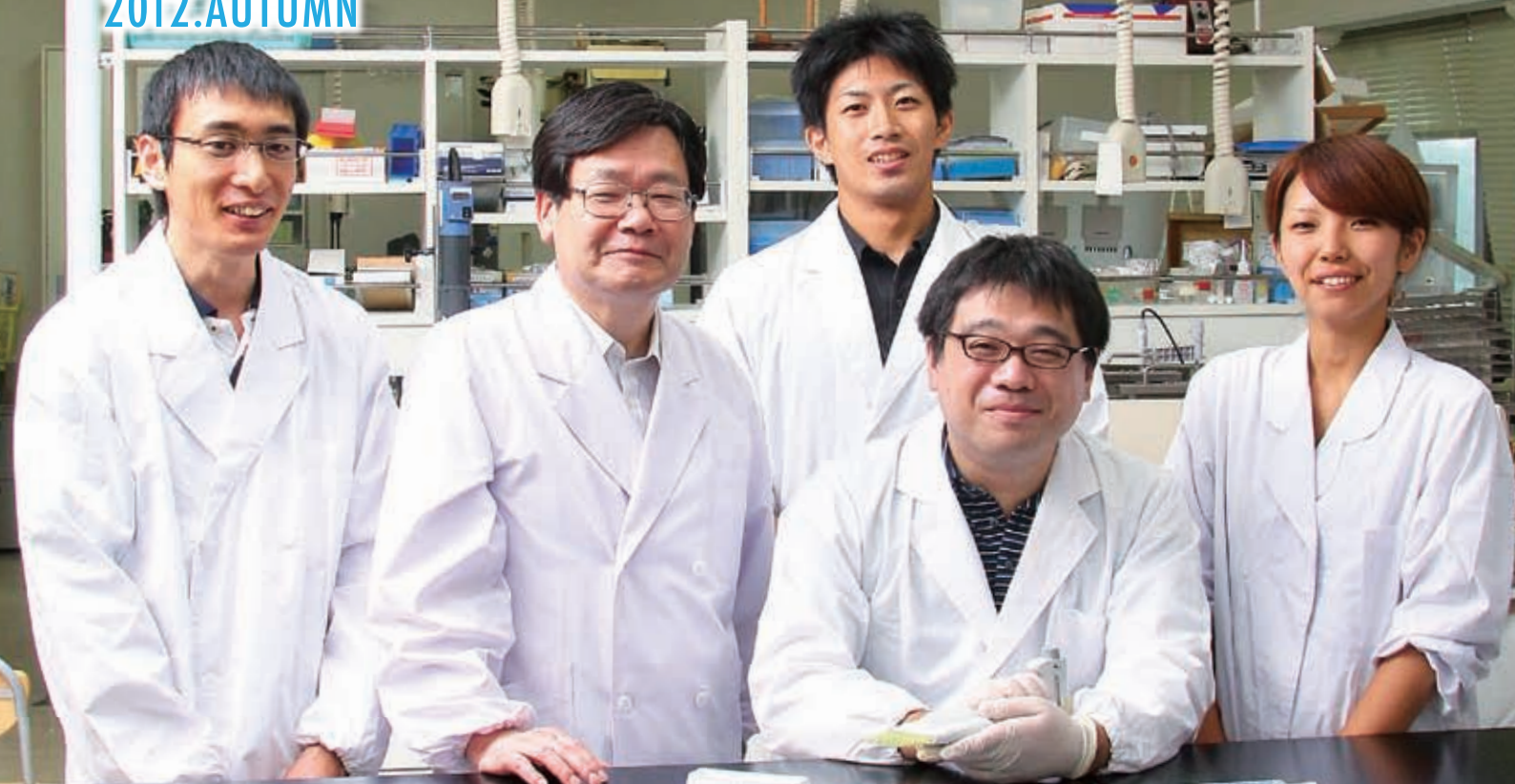
リカ



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2012.AUTUMN



研究者をクローズアップ

新潟大学の研究力【第1回】

授業紹介-教育の現場-／シリーズ 対談

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

新大でワクワクを見つけよう!!

新潟大学Week 2012

Campus Information

 新潟大学

研究
課題

成長円錐の分子基盤に基づく
神経回路の形成と修復の総合的研究

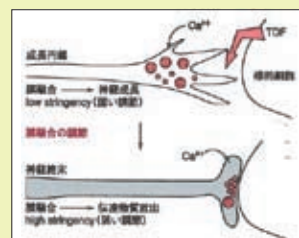
医歯学系(大学院医歯学総合研究科)
五十嵐 道弘 教授

脳細胞で重要な成長円錐とシナプスの研究から、 脳の発達を支配する遺伝子の働き的一端を解明



五十嵐 道弘 教授 Igarashi Michihiro

1987年東京大学にて医学博士取得。2001年より新潟大学医歯学総合研究科の教授に。医学部の研究担当の副学部長として、研究力の向上のための様々な取組と若手研究者の育成にも力を入れている。超域学術院のプロジェクトリーダー。



↑脳細胞の形成に重要な「成長円錐」とシナプス形成を示した簡単に示した図(新潟大学HPより)

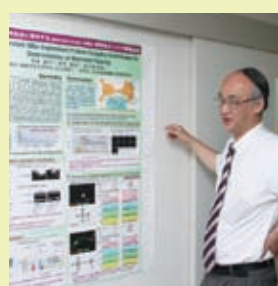
↑「30代の頃は毎日ずっと顕微鏡をのぞいていましたよ」と笑う五十嵐教授

脳の神経細胞を
分子のメカニズムから
研究するチーム。

いまだ未知なる領域を数多く秘める脳機能。新潟大学の医学部には、21世紀に残されたこの大きな命題に挑む研究者たちがいるが、五十嵐教授はその代表格。専門は脳の神経細胞の研究だ。「脳の動きはシナプスと呼ばれる神経細胞同士のつながりで成り立っているんですが、そのシナプスがどうやってできいくのかを研究しています。具体的に言うと、神経細胞の先端が別な神経細胞に向けて伸びていく——それが相手方に到達した時、そこで止まってシナプスを作ると。その動いていく先端の部分を「成長

円錐」と呼ぶんですが、形の確認はできても、それを支配する遺伝子とかタンパク質：実際につかさどっているものが何で、どういう動きをしているのかは分かっている。我々の研究はその解明です。ね」。学内外から集まった精鋭でチームを組み、研究に邁進する五十嵐教授。その研究の最近の成果として、成長円錐について、約千種類におよぶタンパク質群を同定(鑑定)して分子基盤を明らかにし、その場所ですべて働いていそうなたんぱく質を十数種見つけることに成功。これは、脳の発達を支配する遺伝子の働き的一端を解明したものとして高く評価され、学術論文として米国アカデミー紀要(JNAC)に掲載。と同時に、脳疾患の治療に向けても大きな期待がかけられている。「シナプスというものは、脳の中ですごく込みあったタコ足配線みたいになって機能していますから、もし不幸にも事故等で障害を受けると、シナプスを元通りにするのは難しいと言われています。ただ、それを作る役割に神経の成長円錐は関与しているので、

道路にたとえると、例えばある道路が水害で寸断されても、う回路を作ればその道は何とか通れるようになるじゃないですか。私たちの研究は、そういった形で、脳の損傷とか脳の病気の回復に関わりを持つてくることではないかと思っているんです。まさに医学の未来に直結する研究である。ただ、脳の神経細胞の成長部分を、我々のように分子のメカニズムから研究しようというグループはさほど多くはなくて、それが逆にやりがいになっているし、研究の醍醐味でもあるんですけどね」と微笑むその奥には、研究者としての熱き魂が宿っているのだ。



↓五十嵐教授と一緒に研究するチーム。新潟大学内外から優れた人材が集まって、神経系の生化学的研究を続けている



特集

研究者をクローズアップ

新潟大学の研究力

【第1回】

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

CONTENTS

特集

研究者をクローズアップ

03 ● 新潟大学の研究力【第1回】

『成長円錐の分子基盤に基づく
神経回路の形成と修復の総合的研究』

五十嵐 道弘

医歯学系(大学院医歯学総合研究科) 教授



『筋委縮性側索硬化症の研究
脳血管障害の原因遺伝子の解明』

小野寺 理

脳研究所附属生命科学リソース研究センター 教授



『米タンパク質の
生理的機能性に関する研究』

門脇基二

自然科学系(農学部) 教授



『融雪・雪崩災害防止を目的とした
実用的な融雪モデル及び
積雪底面流出モデルの開発』

河島克久

災害・復興科学研究所 准教授



『モンゴル帝国の興亡史と
チンギス・カン』の考古学的研究』

白石典之

研究推進機構 超域学術院 教授



新大でワクワクを見つけよう!!

08 ● 授業紹介 -教育の現場-

11 ● 新潟大学WeeK 2012

09 ● シリーズ・対談

12 ● Campus Information

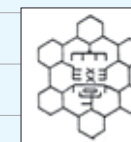
学生の課外活動&サークル紹介

10 ● Enjoy! 学生ライフ

『六花』とは…

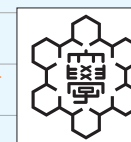
本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

学生章



昭和24年に本学のシンボルマークとして制定された学生章
工学部
吉川長平さん 作

校章



平成11年に本学創立50周年を記念して、幾何学的にデザイン化した学生章を校章として制定
教育人間科学部
小磯 稔 名誉教授 作

六花

題 字

野中浩俊(のなか ひろとし)氏

新潟大学名誉教授(教育人間科学部)

専門は、書道、富岡鉄斎研究

現在は、岐阜女子大学 教授

Cover Photo

農学部の門脇基二教授と研究室所属の学生を実験室にて撮影。アミノ酸・タンパク質がどのように健康に役立つのかを食品学をはじめさまざまな領域と方法論で探究している。





800年前の英雄を研究する中で、現代につながる発見も目指す。

約800年前の13世紀、ユーラシア大陸の東西にまたがる広い国土に交通網を整え、交易促進と情報伝達を図ることで繁栄したモンゴル帝国。白石教授はこのモンゴル帝国とその君主、チンギス・カン研究の第一人者として、国内外で高く評価されている。教授いわく「チンギスは、それ以前に〇〇文明があつて……とか何の背景もないところからボツと出てきて、ボツと消

歴史学ではなく考古学的なアプローチから モンゴル帝国とチンギス・カンの姿に迫る

研究課題

モンゴル帝国の興亡史と
チンギス・カンの考古学的研究

研究推進機構 超域学術院
白石典之 教授



白石典之 教授 Shiraishi Noriyuki

2000年新潟大学にて博士(文学)取得。専門はモンゴル考古学でモンゴル史研究の第一人者。1994年に新潟大学文学部に赴任。1997年より2年間モンゴル科学アカデミー歴史研究所で在外研究。2006年度より超域研究機構(現・超域学術院)の教授となる。



↑現地ではモンゴル帝国時代の墓を調査中
◆左は、チンギス・カン宮殿とそれを改造した彼の廟跡。そして右が、日本モンゴル合同チンギス・カン宮殿跡発掘隊の記念写真。こうしたチーム編成で、丹念で根気のいる発掘作業が行なわれていくのだ

てこれたのが楽しかったんですね。現地での作業は今も続けているが、最近の成果として、チンギス・カンが住んでいた本拠地を特定できたとか。「そこで人々がどんな生活をしてたのか——農耕をやっていたとか、実は魚を食べていたとか、当時の文化や生活がさらに見えてきましたね。ただ私は、この研究が、単に遠い過去の発見だけじゃなく、今に使えるものになればいいなと思っていて。そういう意味でチンギス・カンの「人を惹きつける魅力」に興味があるんです。彼は、広い国土にいろんな民族がいる中で、権力や宗教で統治することはしなかった。「税金さえ納めれば、自分が好きな宗教を信じていいし、今まで通り生活していいよ」と。つまり、人々の生活様式をすべて認めて統治していたわけです。今の社会には、政治や宗教上の対立、民族紛争とか、いろんな問題がありますけど、非常にシンプルなやり方で統治を実践していた人物が800年前にいた——そこには現代につながるキーが隠されている気がしますね」。

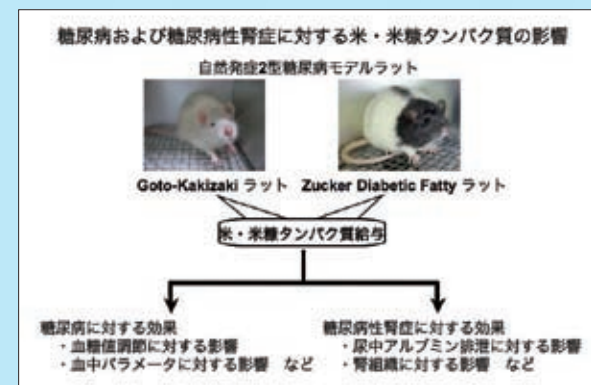
聞いていて浪漫を感じると同時に、今につながる指針もキャッチしようとするあくなき探究心。それこそが、教授の研究をより充実したものと発展させている。

研究課題

米タンパク質の
生理的機能性に関する研究

自然科学系(農学部)
門脇基二 教授

ヒトの健康維持に大きく貢献する新たな 米タンパク質の機能を明らかにする



←米タンパク質の糖尿病や合併症に対する効果を検証した動物実験の成果

門脇基二 教授
Kadowaki Motoni

1986年東京大学にて農学博士取得。専門は栄養化学。本学の地域連携フードサイエンスセンター長。食品関連分野の技術者間交流や、技術革新と社会貢献にも力を注いでいる。超域学術院のプロジェクリーダー。



日本人の主食である
米にはまだまだ多くの
機能性が潜んでいる。

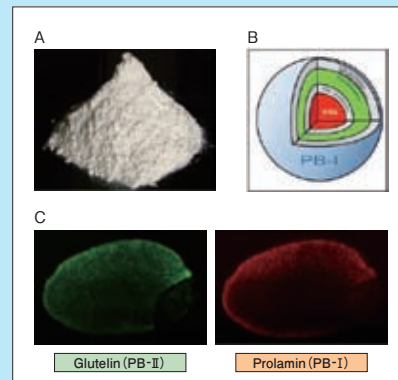
21世紀は健康の時代・食の時代と言われ、健康の維持と促進にとって、食物中に含まれる栄養素と、この栄養素による生理機能の調節こそが重要であると考えられている。

肉食を中心とした欧米スタイルの食生活の問題点が指摘され、米を中心とする日本型食生活が国内外から注目される昨今だが、意外なほどにその米の機能性に関する研究は進められてこなかった。門脇教授は、米の中の成分としてタンパク質に注目。まったく新しい機能を次々に発見、米に対する考え方を変えつつある。

「身体の構成成分のうち、アミノ酸・タンパク質は水分以外の固形物では最も多く、言わば身体そのもの。つまり身

体機能を実際に動かしているのはタンパク質なのです」。古典的な栄養学では植物性タンパク質は動物性のものに比べて質が落ちるという考え方があった。しかし現在では、肉を中心とした欧米型の食生活により脂肪過多の成人の割合が増えたことや、メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病の増加が問題視されており、その価値は逆転している。「植物性タンパク質には生活習慣病や動脈硬化、糖尿病を改善する効果があるということが分かってきました。そして日本人が植物性タンパク質を最も摂取するのは米からなのです。他にも米にはまだまだ多くの機能性が潜んでいることが最新の研究で解明されてきています」。

そのひとつが、コレステロールや中性脂肪の改善力。門脇研究室と企業との共同研究により米タンパク質の大量調



↑米タンパク質のかたち A.精製された米タンパク質、B.不消化性タンパク質プロラミンの粒子構造モデル、C.米胚乳中の消化性タンパク質グルテリン(左)とプロラミン(右)の分布



↑米タンパク質がさまざまな臓器に対し、効果的な機能を発揮することへの成果が明らかにされつつある

製法が確立され、解明された新発見だ。さらに教授によれば、米タンパク質の機能は、糖尿病やそれにまつわる合併症の治療分野でも注目されていると言う。「米タンパク質から、腎臓疾患の改善効果が明確に出してきました。腎臓疾患の治療では、タンパク質の摂取制限を課せられますが、同時に感染症や免疫低下という副作用が起こることが問題とされています。しかし、我々が



「未知の領域において自分たちの研究が次々と新たな展開を見せている」と語る教授。若手教員を積極的にグループの一員に入れるなど後進の指導にも力を注ぐ一方で、医学・歯学系や工学系・教育系の学部、また学外とも積極的に交流を図りながら成果をあげる門脇教授の研究は、今後の高齢化社会における健康維持に大きく貢献することが期待されている。

発見した米タンパク質の機能を効果的に使えば食事のクオリティを落とさずに治療を進めることができる可能性が高くなります」。

さらに米タンパク質の研究過程で明らかになりつつあるのが、消化管制御の機能である。豚は神経質で消化管が敏感な家畜で、ヒトに最も近いモデルとされています。新生仔はしばしば下痢を起こします。ところが米を飼料として飼うとその下痢がなくなる。これは消化管のなかの免疫系の細胞に対して米が働いていることだと考えられます。また新たな流通が始まっている米粉に関しても、小麦と異なるアレルギー性物質を含んでいないという点で注目されていますが、それだけでなく、アレルギーに反応する体質自体を改善する効果があるのではないかと、いつかというところで研究が進んでいます」。



↑チリ・パタゴニアにおける雪氷圏変動の観測現場

雪崩災害や融雪災害の危険度評価を予測 雪氷圏変動の解明にも応用

研究課題

融雪・雪崩災害防止を目的とした
実用的な融雪モデル及び積雪底面流出モデルの開発

河島克久 准教授 Kawashima Katsuhisa

1998年新潟大学にて博士(理学)取得。専門は雪氷学。現在は災害・復興科学研究所 環境変動科学部門 気水圏環境分野を担当。地震と豪雪の複合災害の研究にも携わっている。

今年6月、JR東日本と新潟大学災害・復興科学研究所の共同研究により開発された融雪水の積雪底面流出量を推定する手法がプレス発表された。この研究において中心的な役割を担ったのが本学の河島准教授。「鉄道沿線には雨量計があり、降雨に対する安全対策は確立しています。ところが、雪融けに関しては直接確認や観測することの難しさから同等のものがなかった。私たちは、鉄道沿線斜面の融雪による崩壊や雪崩の危険性を評価し、列車の安全運行を支

誰も観測したことのない
地球の挙動や現象を
明らかにする。

援するシステムに利用するためのモデルを作っています」。本研究は、コストと精度を含め現場での汎用性が高いものを作るのが大きな狙い。内容や性能がいかに優れていても、コストや現場レベルでの使用に耐えうる手法でなければ現実性がないという。同研究はすでに実用化へ向けた段階に突入り、昨冬から一部線区で試行・検証実験が実施されている。

また、河島准教授らは新潟県内を中心とした豪雪地域での現地観測に基づいて研究開発を進めてきたが、こういった雪氷・気象分野の観測手法は地球環境問題の研究にも活かされている。「今回のJR東日本との共同研究で開発した融雪モデルや簡易融雪センサー(左下の写真は、現在チリ・パタゴニアで行っている雪氷圏変動の長期モニタリングや温暖化影響の解明にも活躍しています)。雪氷圏とは地表に雪や氷、海水、凍土がある領域。そこは地球温暖化に対して最も脆弱であり、雪氷圏変動の解明は人間生活や災



←右はJR東日本との共同研究の様子。融雪水の観測のための融雪ライセンサーという装置の設置作業。左は融雪量推定を可能とする融雪熱量温度計と名付けられたセンサー(特許出願中)

害予測においても重要だという。「人口の少ない雪氷圏の変化は、正確な観測ができていないのが現状。温暖化や環境問題が深刻に叫ばれる時代ですから、雪氷圏で何が起きているのか、そして今後何が起きているのかということに対して、世界中の研究者たちが力を合わせていかなければならないタイミングだと思います」。

河島准教授の研究の根底に流れるテーマはふたつ。ひとつは自身の研究をいかに汎用性の高いものとして社会に還元できるか。JR東日本と開発した実用性の高いモデルはその最たる例だ。「高額の予算や設備を投資した研究や観測ももちろん必要ですが、なるべく少ないコストで高い成果を上げることも同等に大事だと思っています」。もうひとつは、何より研究者としての情熱。「融雪期は年に一回しかやってこないし、実験やシミュレーション研究と違って地球科学的なフィールドワークには時間がかかりますが、それゆえの面白さもある。これまで誰も観測したことのない地球の挙動を観てデータをとり、明らかにすることが実際の現場でいわれることは何よりの喜び。地球で起こっている現象を自分が初めて捉えるんだという思い入れは強いですし、それを理論として構築するのは研究者としての気持ちはずくところでもあります」。



研究課題

筋委縮性側索硬化症の研究
脳血管障害の原因遺伝子の解明

脳研究所附属生命科学リソース研究センター
小野寺 理 教授

世界と勝負する新潟大学から 未来の脳治療につながる成果を生む



←細胞培養の実験中。新潟大学脳研究所は、脳疾患を学ぶ上で最も適した学問の場である

神経内科Ⅱ脳の病気の
理解と治療法を探索する
プロフェッショナル。

医学の中でも脳の疾患は重要な分野のひとつ。しかし脳の複雑さ、特殊さ故に、解明は困難で、より専門的な知識が必須。新潟大学脳研究所はこの理念の元で設立された機関だ。そこで活躍する小野寺教授が、特に力を入れているテーマは二点。ひとつは、筋委縮性側索硬化症(ALS)の研究。ALSは重篤な筋肉の萎縮と筋力低下をきたす神経変性疾患で、根本的な治療法がないとされる難病である。「ずっと世界の医学者が研究してきた中、ついに原



↑若手研究者の育成にも積極的に取り組む。[特に臨床の現場から、科学的に実証に足る仮説を提唱し、それを検証できる人材、チーム、基盤の養成に力を入れています]

因が分かったんですよ。それは08年にアメリカの研究者が発表したんですけど、世界中で本当にそれが原因かどうか分かっていないと思って探していた患者さんがうちの脳研(新潟大学脳研究所)にいて、その立証を我々がサポートしたんです」。具体的にはTDP43という遺伝子のタンパク質の変異を発見したのだが、そのきっかけは病理医の「これはおかしいかも?」という嗅覚であり、まさに脳研ならではの言い方。「そんな風に患者さんを直接診察する臨床部門と、研究部門が同じ建物にある機関は全国的にも珍しいですから。なおかつ、(前身の研究室が)約50年前に設置されて以来、蓄積してきた膨大な脳神経病理標本——臨床する先生が患者さんと向き合ってた解をいただいた例——の積み重ねがある。そうした先達の功績と伝統のおかげで、脳の病気の解明におい

て大きな成果をあげてこれたと思っています」。その成果の例が、もうひとつの大きな研究テーマである、脳血管障害のメカニズムの解明。教授を中心とするグループは脳血管障害を引き起こす遺伝子の単離(分離)に世界で初めて成功し、この成果は09年に権威あるアメリカの学術誌に掲載され、注目を集めた。「今まで発表した中で最も国際的な評価を受けたものがこれです。で、今は、我々が想定する治療薬をモデルの動物に投与し、うまく進行を止めることができるれば、という段階ですね」。非遺伝性の脳血管障害——いわゆる隠れ脳梗塞——

の治療や予防につながることで期待される研究だが、教授はさらに言葉を続ける。「困っていらっしゃる方に少しでも早く治療法を提供できるようにしたい。そういう意味で我々の仕事は世界を動かせるものだと思います。正直、国際的に見れば新潟大学はトップの大学ではありませんけど、それでも世界と勝負できると思っているし、我々には脳研という環境がある——今までの歴史や患者さんの思いも積み重ねてきた、その流れを無にはできないなど。…まあ、冷静に考えれば、自分が倒れても代わりはいるし、研究は進むんですよ。でも、そう言いながら

小野寺 理 教授 Onodera Osamu

1993年新潟大学にて博士(医学)取得。新潟大学医学部の卒業生であり、現在の専門は神経内科学。先端的・学際的研究を行なう新潟大学「超域学術院」の研究プロジェクトにも認定され、若手研究者の代表格として注目されている。



も、こうして走っていく先に絶対何かがある!!」と信じて懸命に向かっているのが日本の男でしょう(笑)。その誇りが僕らの支えじゃないですかね」。実は小野寺教授は新潟大学医学部の卒業生。そんな生え抜きのこころという人材がいることは、改めて新潟大学の頼もしさを感じさせてくれる。

授業紹介 — 教育の現場 —

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約500科目の中から特色ある授業を紹介。

第2回

工学部



鳴海 敬倫
工学力教育センター長
自然科学系(工学部)教授

博士(工学)。専門は流体工学・レオロジー。高分子液体や液晶などの複雑流体の流動現象の解明を行っている。

「工学力教育センター」による新たな教育プログラムの開発

「工学部では、ものづくりに向かう総合的な力を『工学力』と定義し、その育成を目指して平成16年3月に工学力教育センターを設置しました。そこから過去にない工学教育プログラムの開発と実践を行ってきましたが、そのひとつに『創造プロジェクト』があります。これは、異なる学科や学年の学生がチームを組んで、ものづくりプロジェクトを企画・立案し、それを具現化することに取り組み活動です。教員から受ける講義ではなく、自分達のプロジェクトを進めながら自ら学んでいくアクティブラーニングになっています。そのチーム活動の中で、つくる力、学ぶ力に加えて、人間力も身につけてほしいと思っています。現在、参加学生は58名。テーマは9つあり、それぞれ本場に活発に活動しています。『これをやりたい!』という意識が高く、やる気があり、頼もしくまた楽しみな学生達です」。

創造プロジェクト チーム ～ロボコン～

工学部の創造プロジェクトの中でも「ロボコン」チームの人気は高い。現在のメンバーは全18名。毎年6月に東京で開催される「NHK大学ロボコン」を目指し、一年を通してロボットを製作。その内訳は、大まかに分けて機械設計、回路設計、プログラムの三つで、各メンバーが得意のジャンルに分かれ、協力し合いながら作っていく。チームリーダーの石郷岡さん(工学部3年)は「普段は座学で理論を学んでいますが、こういう実際に作る経験が次の座学で生きたりとか、好循環を生みますよね」と、その充実ぶりを語る。そう、ものを作るのは楽しいこと。そんな工学部の原点を改めて感じさせるプログラムなのだ。



左 石郷岡 玄一郎さん(工学部3年)
右 中村美里さん(工学部2年)

「チーム内の協調性をちゃんと持って目標に向かいたい。今の目標ですか? 去年のチームがロボコンでベスト4だったので、来年また返り咲くことを狙っています(石郷岡)」「実際に作った方が楽しいし身につくし、いろんなことを自主的に調べたりするので、学べている感じがより実感できますよね(中村)」

STUDENTS VOICE!

チーム ～学生フォーミュラ～



STUDENTS VOICE!

「他の授業とも共存しあっていると。言うか。その授業の予習になったり復習になったりするし、僕は両方体験できて良かったです。(池浦)「メンバーは皆、車が好きで学生なのでやりやすい。車の話で盛り上がったりと、自分たちで作ったものが動いたりすると、やっぱり『いいな!』って感じます」(鈴木)



左 池浦正人さん(工学部3年)
右 鈴木寛人さん(工学部2年)

そしてもうひとつ、創造プロジェクトにはフォーミュラカー(競技用のレーシングカー)を作るチームも。車が好きな学生が集まり、彼らもまた年間スケジュールをきちんと決めて活動中。設計→製作→試走を経て、毎年9月初旬にある「全日本学生フォーミュラ大会」に臨むという流れだが、新リーダーの池浦さん(工学部3年)は「大会で上位に入った大学を見ると、自分達にはまだまだ足りないものが多い。だから2カ年計画で——僕らの代は試走データを積み重ねる熟成期間であり、後進の育成も含め、先を見据えて進んでいきます」と、まるで企業のような“大人のコメント”を。これもまた、この授業の成果なんでしょうね。

Bring Back Memories

恩師と語らう懐かしの時代 シリーズ・対談

恩 師 熊木克治 名誉教授
教 え 子 金澤寛明さん 長谷川和宏さん
[昭和62年3月 医学部 卒]

対談場所 / 医歯学総合病院 入退院口「ヒボクラテスの木」前

今の立場になって改めて気付く 当時の恩師の教え

——今日は解剖学を専門にされていた熊木先生と約30年前、その授業を受けたお二人をお招きしました。当時の思い出や、学び舎としての新潟大学への思いを語って

ただこうと思います。
金澤 その時代は僕にとって完全に青春です。仲間、同じ方向に進む友人との関係もこの時期に形成されています。熊木先生の授業と新潟大学がなければ今の自分はないと思っています。
長谷川 3年次で熊木先生の解剖学実習に出会ったんですが、いろんな実習があった中でも特に真剣に取り組んだことが今に繋がっています。自分が医者になった今思うのは、新潟大学には長い歴史があつて先輩から引き継ぐものがある。多いということ。先生方と学生、先輩と後輩の強い繋がりが。それは今の自分の立場になって初めて気付いたことだし、まさに僕らの基礎ができたのは新潟大学だと思っています。

金澤 先生の「君たち、やる気あるんかいな」という口癖は今でも忘れられません。
熊木 自分の不勉強を学生に転嫁していたんじゃないかな。新大の学生は適応性もあるし、「よし、やろう」という一休感もある。当時も今も、研究や学びの場としては非常にいい環境にあると思います。
長谷川 私が整形外科に入ってからという専門分野を志した第一歩が先生がおられた解剖学から借りて勉強した椎骨(背骨)の標本だったんです。僕に今に至る研究のすべては熊木先生のご協力のおかげ。今も解剖学の本を開く度に、先生の顔が浮かびます。

金澤 僕は学生時代の反省から今も解剖学を教えているようなもの。解剖の知識をしっかりと身につけなければ絶対に臨床にはいけない。「今やっていることは単なる記憶、暗記ではないんだ」と学生に言っているんです。自分が教える立場になって勉強し直すと、「先生はこういうことを教えるように」ということを教えるようになったんだ」と気づかされるんですね。当時

解剖学の本を開く度に先生の顔が浮かびます。

二人が立派になった姿を見ると誇らしく、うれしい気持ちです。

先生の授業と新大がなければ今の自分はないと思います。

金澤寛明さん

昭和62年3月、医学部卒。現在は静岡県立大学の教授として教鞭をふるう。

熊木克治 名誉教授

昭和56年～平成12年まで新潟大学の教壇に立つ。現在は新潟リハビリテーション大学教授。

長谷川和宏さん

昭和62年3月、医学部卒。現在は新潟県立大学(亀田第一 病院内)センター長。

新大でワクワクを見つけよう。

新潟大学Week 2012

2012年10月20日(土)～28日(日)

メイン会場:五十嵐キャンパス／旭町キャンパス

新潟大学の活動を広くみなさんに紹介する「新潟大学Week 2012」を開催します。

今年のキャッチフレーズは“新大でワクワクを見つけよう。”

ここでは期間中に開催される多数のイベントの中からその一部をピックアップします。

大学祭、コンサート、
体験イベントなど
心躍る“ワクワク”が
いっぱい!

大学祭



第53回新大祭

日時 10/20(土)～21(日) 会場 五十嵐キャンパス

テーマは「Colors」。「WEAVER」によるコンサート、お笑い芸人によるライブ、プリンセスコンテスト、学生サークルによるステージ発表、模擬店など様々なイベントを開催します。

問 学務部学生支援課 ☎025-262-7506

第2回医歯学祭

日時 10/27(土)～28(日)

会場 旭町キャンパス 医学部校舎・保健学科校舎・歯学科校舎

「SHAKALABBITS」によるコンサート、マジシャンによる路上パフォーマンズ、ミス&ミスターコンテスト、救急車の展示など。

問 医学部学務係 ☎025-227-2015

工学部祭

日時 10/21(日)

会場 五十嵐キャンパス 工学部棟

工学部学生が中心となり、研究室公開、工学実験、フリーマーケット、クイズラリーなどを開催します。

問 工学部学務係 ☎025-262-6709

同窓会

●全学同窓会

新潟大学・全学同窓会交流会記念講演会
および懇親会 (要事前申込 ※定員300名／先着順)

日時 10/27(土)
研究トピックス紹介、記念講演(入場無料) 15:00～17:00
懇親会(会費5,000円) 17:30～19:30

会場 ANAクラウンプラザホテル新潟(新潟市中央区万代5-11-20)

・研究トピックス紹介「高機能性食品素材として有用な新規糖質の生産開発」
講師:中井 博之氏(新潟大学 テニュアトラック助教(自然科学系))

記念講演「トキの野生復帰が目指す人と自然の共生」
講師:長田 啓氏(環境省佐渡自然保護官事務所 首席自然保護官)

問 新潟大学全学同窓会事務局 ☎025-262-7891



長田 啓氏

「新潟大学Week 2012」に関する
詳細は新潟大学ホームページ特設サイトへ

<http://www.niigata-u.ac.jp/event/week2012/>

教育学部

●コンサート

新潟大学コンサートシリーズIAS
「アレッシオ・ボックス」
ピアノ・リサイタル (要事前申込)

日時 10/17(水) 19:00～21:00

会場 五十嵐キャンパス 教育学部大講義室

世界的ピアニスト、アレッシオ・ボックスによるリサイタルで、ムソルグスキーの大作(展覧会の絵)他を演奏します。

問 教育学部学務企画係 ☎025-262-7096



理学部

●親子体験イベント



地質まつり

日時 10/20(土)～21(日) 両日10:00～16:00

会場 五十嵐キャンパス

自然科学研究科物質生産棟1F

地域の子どもたちに地質の面白さを伝える各種イベントのブースを設置。「震災復興」や「防災」に関連した展示も行います。

問 理学部総務係 ☎025-262-6102

工学部

●女子学生応援イベント



目指せ! 工学女子2012
in にいがた

日時 10/21(日)

13:00～15:30

会場 五十嵐キャンパス
工学部101講義室

女子大学院生による工学セミナーや現役女子学部生・院生等によるパネルディスカッションを行います。

問 工学部学務係 ☎025-262-6709

農学部

●バザー

アグリバザール

日時 10/20(土) 11:00～14:30

会場 五十嵐キャンパス
農学部正面玄関前

農学部附属フィールド科学教育研究センターで生産された新鮮農産物の即売会を行います。

問 農学部総務係 ☎025-262-6604



●新潟大学イメージアンケート●



日時 10/20(土)～21(日) 両日11:00～14:00

会場 五十嵐キャンパス

新潟大学イメージに関するアンケートにお答えいただいた方に、新大オリジナルグッズをプレゼント!(両日とも先着500名)

問 広報室 ☎025-262-7000



Enjoy! 学生ライフ

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですね! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍ぶりをお届けします!!

CIRCLE
PICK UP!

2年連続で全日本駅伝に挑む!
陸上競技部 中長距離
ブロック



2年連続の出場を決めた全日本駅伝に向けて、新潟市陸上競技場で練習する駅伝チームのみなさん

全員の力を合わせて
ゴールを目指すのが
駅伝の魅力です



中長距離ブロック長
渡邊和史さん
(工学部3年)

全日本駅伝に向けて
部員一丸となって練習中!

「22年ぶりに出場を果たした昨年に続き、今年も全日本大学駅伝対抗選手権大会の北信越地区予選を勝ち抜き、代表になることができました。この大会に出ることを目標に、1年間練習を重ねてきた結果が実ったと思います。今回は「昨年よりいいタイムと順位」という目標を持ち、11月に行なわれるレースに向けてしっかり走り込みます」(渡邊中長距離ブロック長 談)

一枚の写真で自らを表現
写真部



部長 佐々木 雄彦さん
(工学部3年)

一枚の写真を通して
表現は難しく
とても楽しいものです

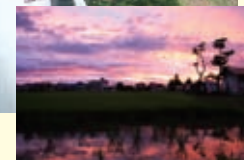


記憶や感情、瞬間を
切り取り表現する

「同じ風景やものを撮っても、自分の写真と人の写真では全然違うものになる。写真の魅力は、その一枚を通してその人が物事をどういう風に考えているのかを感じ取れるところだと思います。楽しい記憶や決定的な瞬間が形として残るのも写真ならではの。個人的な部のメンバーとお互いの作品について議論するのも楽しい時間です」(佐々木部長 談)



後列左より写真部の井上貴展さん、佐々木雄彦さん、村上香斐さん、手前は樋口諒さん



「phantom」佐々木雄彦(工学部3年)

CAMPUS
TOPICS!

オープンキャンパス2012
が開催されました!!



↑人文系の学生とFM PORTによるラジオ公開生放送も、オープンキャンパスの会場で行われました

2日間で約15,000人もの方たちが
新潟大学を訪れました

去る8月9日・10日に、本学の五十嵐キャンパスと旭町キャンパスで開催されたオープンキャンパス。1日目は6,781人、2日目には7,941人と、県内外から2日間で約15,000人の参加がありました。当日は、大学生との交流コーナーのほか、各学部ごとの説明会や模擬授業などたくさんの企画を実施。気持ちのいい夏空の下、大勢の方々に本学の雰囲気を感じていただきました。

新大生の活躍を紹介する特設サイト
Activity Reportを開設



学生活動編



サークル編

新潟大学のサークルと学生活動を
紹介する新しいウェブコンテンツ

「Activity Report」は、新潟大学のホームページに新たに登場したウェブコンテンツ。「サークル編」と「学生活動編」のふたつから構成されています。「サークル編」は大会等の予定と結果を表示し、「学生活動編」では新大生の取り組みや参加行事などを紹介。いずれのサイトも新潟大学ホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/> のバナーよりリンク。ぜひご覧ください。

Campus Information

地域に密着しながらさまざまな活動続ける新潟大学。
皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!

生まれ変わる中央図書館に 学生たちも注目



↑ 工事区画の外壁パネルを見る高校生

→ 館内モニターを見る学生



平成25年4月に生まれ変わる中央図書館の完成予想図を、図書館内や工事区画の外壁にパネルで紹介しています。この他、総合教育研究棟ロビーや図書館内に設置したモニターに完成イメージ画像を映しています。学生からは「きれいな図書館を早く利用したい」、「カフェが楽しみです」と、期待の声がたくさん寄せられています。また、8月に開催したオープンキャンパスの来場者からも「こんな図書館で勉強できれば嬉しいです」との感想をいただきました。

大学施設のイベント情報

新潟大学 旭町学術資料展示館

新潟市中央区旭町通2-746 tel.025-227-2260
水曜～日曜の10:00～16:30

EVENT SCHEDULE

『尾竹三兄弟展』

2012年10月17日(水)～12月23日(日)

会場:旭町学術資料展示館

内容:新潟市白根(現:新潟市南区)出身の画家、尾竹三兄弟の作品を展示します。明治期の教科書や雑誌・絵本なども手掛けた画業の変遷を師や弟子の作品と比較しながらたどります。



新潟大学 駅南キャンパス ときめいと

新潟市中央区笹口1 プラザカ1・2階 tel.025-248-8141
月～金曜 8:30～21:30 / 土・日曜 9:00～21:00 (入館は閉館30分前まで)

式典

新潟大学秋季卒業式

2012年9月20日(木)

会場:新潟大学駅南キャンパス
「ときめいと」

内容:平成24年度秋季卒業式を挙行了しました。当日は卒業生のほか、保護者等総勢約100名が列席しました。代表者への学位記授与後には在学生による祝典演奏が行われ、卒業生の門出をお祝いました。



新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

「新潟大学基金」は、皆様からのご寄附を基に、学生の修学支援や、国際交流活動等、魅力ある大学作りのために活用しています。ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられる他、特典もご用意しております。詳しくは基金ホームページをご覧ください。

● 基金ホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新潟大学基金事務局 電話:025-262-5651 (受付時間 平日9:00～17:00)
FAX:025-262-7272 E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学
季刊広報誌

六花

RIKKA
2012.Autumn

■発行/平成24年10月

■編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

■電話/025-262-7500 ■FAX/025-262-6539

Home Page <http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

編集後記

今号の「Enjoy! 学生ライフ」は新潟大学インターンシップ参加の学生と一緒にページ構成を考えました。積極的な発言が多く、色々な意見が飛び交う大変有意義なものとなりました。「六花」についてのご意見・ご要望がありましたらお気軽にお知らせ下さい。これからもよろしくお願いします!(き)